

イベントレポート

バス見学会

「東京の森と水と食を訪ねて」 森と水と食グループ

よい森はよい水を育み、よい水はよい食を育てます。東京の「森と水と食」の源を訪ねて、東京ローカルの良さを実感しようと、雄大な自然の日の出町に行ってきました。

日時：10月2日(水) 9:00出発 16:10解散

●当日スケジュール

- 8:45 新宿駅西口 スバルビル前集合
- 9:00 出発
- 10:15 多摩木材センター協同組合（日の出町）
- 13:00 みやび工房大多摩うまいもの館
- 14:00 (公財)東京都農林水産振興財団青梅庁舎
- 16:10 新宿駅西口 スバルビル前解散

1 車中

バスの中では、東京都消費者月間事業の説明や、バス見学会の実施趣旨の説明の後、食の安全に関するアンケートを配布し、参加者の皆さんに回答していただきました。また、高齢者の身の回りの危険を防ぐための啓発用DVD「ヒヤリ ハットリくん只今参上!!」(東京都消費生活総合センター発行)を放映しました。

2 多摩木材センター協同組合（日の出町）

学習会「東京の森づくりについて考えよう」と施設見学

最初に、東京都森林組合連合会の植竹専務理事から、東京都の森林や林業の現状や様々な取り組みについてお話を伺いました。

「森林は綺麗な水を作り、空気を清浄にし、地球温暖化防止に役立つなど多面的な機能を持ちます。

日本の森林の割合は66%で、森林率はフィンランド、スウェーデンに次いで世界で第3位です。東京の森林は約79,000haで、東京の面積の約4割を占め、そのうち約7割が多摩地域にあります。多摩の森林はスギやヒノキなどの人工林が59%を占め、全国(46%)に比べ、高い人工林率となっています。スギやヒノキの多くは1964年に開催された東京オリンピックの頃に植えられ、木材として利用可能な50年生前後となっています。しかし、林業の現状は、伐採や搬出などのコスト高と木材の価格の下落、安い外来材の輸入などの影響で低迷し、伐採されずに林齢を重ねている森林も少なくありません。その結果、多摩の人工林は若い森林が極端に少なく、偏った林齢構成になっています。そこで、木材の生産から流通までを一貫した体制に整備し、『多摩産材認証制度』や『木材利用ポイント事業』などにより、多摩の林業の活性化を図っている」とのことでした。

続いて、多摩木材センターの広場で、多摩木材センター協同組合の三谷専務理事に、多摩産材

原木の束を前にしながら説明していただきました。

「多摩木材センターは、平成4年に完成した東京唯一の原木市場です。ここでは多摩の山から伐採されたスギやヒノキの原木を売る市が、毎月2回開催されます。木材の販売はセリで行い、値段は1立方メートルに換算して幾らかを決めます。スギとヒノキは建築素材として優れていますが、スギの値段はヒノキの約半分です。販売価格はここ20年で3分の1に下がりました」との内容で、林業の現状の厳しさを実感しました。



新宿から高速道路を走って約1時間で来られる日の出町は、自然が豊富です。台風22号の影響で雨水をふんだんに含んだ杉木立の中、空気は透明感を増し、空の高さを実感できたひとときでした。

3 みやび工房大多摩うまいもの館

昼食後、近くにある「みやび工房大多摩うまいもの館」へ行きました。ここは、天然資源の保護管理から資源を利用した商品の製品化・販売を行い、自然と人との豊かな生活を提案しているところです。

資源を有効活用した桜チップの「燻製チーズ」や「燻製玉子」、工芸品など、大多摩地区の名産品を販売していました。



4 (公財) 東京都農林水産振興財団青梅庁舎

青梅畜産センター畜産担当の田村さんに、25ha(東京ドーム5個分)の広さがある施設内を案内していただきました。ここは、東京都が開発した「トウキョウX」(豚)「東京しゃも」(鶏)の系統を維持し、種畜(繁殖用家畜)を生産者に配付する事業や、畜産物の生産拡大及び消費拡大のための支援、家畜とのふれあいや食農教育をしている所です。また、花粉の少ないスギの研究や、森を守るための鹿害の研究等も行っています。

電信柱のような形のアメダスや百葉箱の設置場所をはじめ、牛舎(白黒のホルスタイン、茶色のブラウンスイス、黒い黒毛和種)と放牧場、牛の餌となるソルゴーという草の畑(ここは10月25日に子供向けイベントの迷路会場になるそうです)、背の高いサイロ、特殊な発酵臭のする堆肥センター、ニホンシカの囲いなどを見学して回りました。

「東京しゃも」「東京うこっけい」の鶏舎や「トウキョウX」の豚舎の中は厳しい衛生管理がされており、人間が持つ雑菌が舎内に入り込む恐れがあるため、見学できないようになっています。そのため、家禽エリアや豚舎の前で、生産から流通・小売までのルートについて説明していただき、安全安心で付加価値の高い食材提供への技術開発について学ぶことが出来ました。



5 一路新宿へ

帰りのバスの中では、クレジットカードの活用術を啓発するDVD「明日のためのクレジット活用法」（東京都消費生活総合センター発行）を放映しました。

今回のバス見学会を通して、東京都は、東京の林業や畜産業を守り地産地消を発展させようと日夜研究や工夫を重ねている実態を知ることができました。また、実際の現場を前にして、林業も畜産業も実は私たちの生活の身近にあるということに気づき、消費者として何をしたらよいか、それぞれが考える機会となりました。今後の「くらしフェスタ東京」の事業にも活かしていきたいと思います。